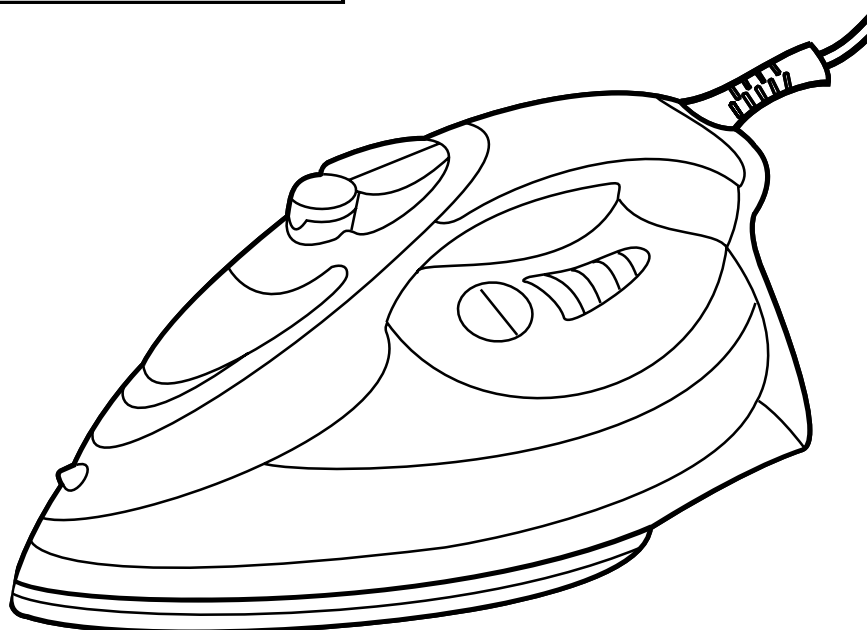


取扱説明書

morphy richards® スチームアイロン

プレシャス
コンフィグリップ

品番 40719JPN



ご注意ください！

このアイロンは、電源プラグをコンセントに差すと通電を開始し、かけ面温度が自動的に「綿（高温）」の設定になります。電源プラグを差したまま絶対にアイロンのそばを離れないでください。



この度は、morphy richardsスチームアイロンをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも取り出せる所に大切に保管してください。
- 保証書は、この取扱説明書の裏表紙についていますので、ご購入日、販売店名などの記入をお確かめください。

安全上のご注意	1
各部の名称	4
ご使用方法	5
使用の終了、お手入れの際のご注意	10
アイロンのかけ方	11
故障かな、と思ったら	13
アフターサービス、仕様	14
保証書	


安全上のご注意


- この製品を正しく安全にお使いいただき、危害や損害の発生を未然に防止するための重要な情報です。記載事項（図記号等による表示）を必ずお守りください。
- 注意事項は、誤った取扱いで生じることが想定される危害や損害の大きさと切迫の度合いにより、「警告」と「注意」に区分しています。

 警告	取扱いを誤った場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、人が障害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

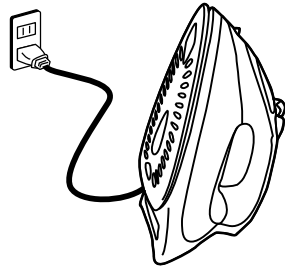
 注意	△の記号は、注意（警告を含む）をうながす事項を示しています。
 禁止	○の記号は、してはならない行為（禁止事項）を示しています。
 指示	●の記号は、しなければならない行為を示しています。


警告

-  電源プラグをコンセントに差すと、通電を開始し、自動的にかけ面温度が綿（高温）」の設定になります。電源プラグを差したまま、絶対にアイロンのそばを離れないでください。
- 操作部上部の温度設定ボタン▲▼のいずれかを長押し（約3秒）すると、通電が止まります。再び温度設定ボタン▲▼のいずれかを押しと、通電状態となり、自動的に「綿（高温）」の設定になりますので、充分ご注意ください。


-  交流100Vで15A以上のコンセントを単独で使う。

交流100V以外で使ったり、コンセントを他の器具と同時に使ったり、延長コードを使うと火災、感電の原因となります。




-  電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。


差し込みが不完全だと、感電や発熱による火災の原因になります。

-  使用中はアイロンから離れない。


けがややけど、絶縁劣化による感電や火災、万一の故障による過熱や子供が触れる事故を防ぎます。

-  電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。


感電、ショート、発火の原因になります。

-  子供の手の届く所では使用しない。子供に使用させない。


けがややけど、感電の恐れがあります。


-  電源プラグの刃および刃の取付面にほこりが付着している場合は拭き取る。

ほこりが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート、火災の原因になります。


-  濡れた手で操作や電源プラグの抜き差しをしない。

感電の原因になります。

-  電源コードや電源プラグが熱い場合、または電源コードを動かすと電源が切れる場合には、直ちに電源プラグをコンセントから抜いてください。使用し続けるとショートや火災、発火の原因になります。


-  使用後は電源プラグをコンセントから抜く。

不用意な通電や感電を防ぎます。

-  分解しない。また、修理技術士以外の人には修理しない。

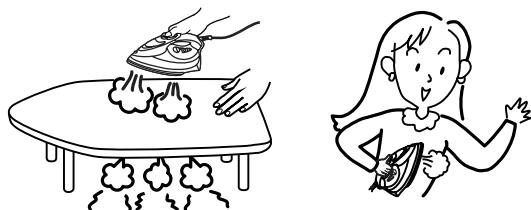
火災や感電、発火の原因になります。


⚠ 注意

 熱いスチームやショットに触れない。


- 手、ひざにかけない。
- 衣類を着用したままスチームをかけない。

アイロン台を透過したスチームや湯滴はやけどの原因になります。




 高温部（かけ面など）に触れない。


やけどの原因になります。

 アイロンを傾けたり、前後に激しく動かさない。


スチームや湯滴が出て、やけどの原因になります。

 熱いアイロンにコードを巻きつけない。


感電やショートして発火の原因になります。

 アイロンの近くで可燃性ガス（ベンジンなど）が発生するものを使用しない。


火災の原因になります。

 湿った衣類は「ドライ」でアイロンがけする。


「スチーム」でアイロンがけすると、湯滴が出てやけどの原因になります。

 絵表示より高い温度でアイロンがけをしない。


布地をいためる原因となります。

 アイロンの持ち運びは、必ずかけ面が冷めていることを確認してから行う。


やけどの原因になります。

 プラグを抜くときは電源コードを持たず、必ずプラグを持って引き抜く。


電源プラグや電源コードが傷み、火災の原因になります。

 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、重いものをのせたり、挟み込んだり、加工したりしない。


電源プラグや電源コードが傷み、火災の原因になります。

 電源プラグ等のほこりは定期的にとる。

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因となります。プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

 アイロンは安定した所に立てて置く。


毛足の長い敷物や不安定な所に置くと、転倒して、やけどやけが、敷物の損傷などの原因になります。

 スチームの勢いが弱くなったら、スチームボタンは操作しない。


湯滴が出て、やけどの原因になります。

 注排水時は電源プラグを抜く。


感電の原因になります。

 衣類に縫い針などをさしたまま、アイロンがけしない。


アイロン内部に入ると、ショートの原因になります。

 ご使用中、アイロンを置いているときは、ショットスチームボタンを押さない。

やけどの原因になります。

 ショットスチームボタンを瞬時に何度も連打しない。

湯滴が出て、やけどや衣類・布地をいためる原因となります。

 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜く。

絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

お願い事項

アイロンがけの際、アイロン本体がアイロン台からはみ出さないようにしてください。

熱いかけ面やスチームによるやけどの原因になります。

ボタン、フック、ファスナーなど、硬いものに直接かけないでください。

かけ面を傷つけます。

注水口には上水道以外の水や液体（リネンウォーター、香水を含んだ水など）を入れないでください。

タンク破損や、衣類の汚れの原因となります。

業務用として使用しないでください。過負荷による故障の原因になります。保証対象にもなりませんので、ご注意ください。

アイロンに水をかけないでください。特に注水、排水時はご注意ください。

故障の原因になります。

使用後は必ずタンク内の水を捨て、本体が十分に冷めてから、平らで安全な場所に立てて保管してください。

洗濯した衣類に汚れや洗剤が残っている場合、アイロンの熱を加えると、衣類が茶色になる場合があります。衣類はよくすすぎ、乾かしてからアイロンをかけてください。

高級品や特殊加工などには目立たない部分で試しがけをしてください。

ベルベット、アクリル、ナイロン、カシミアなどには特に気をつけてください。

コートや毛足の長い衣類は、かけ面を離してショットスチームをかけてください。革製品には、スチームを使用しないでください。

アップリケや接着芯など接着する時は、必ず「あて布」をしてください。

温度設定を「●●●」または「max」にして、あて布をして「ドライ」でアイロンをかけてください。

スプレーのり使用時は、洗濯物をよく乾かしてから、あて布をして「ドライ」でアイロンがけをしてください。

かけ面にのりが付着した場合は、かけ面が冷えてから、水を含ませた布でふき取ってください。付着したまま使うと、かけ面にのりがこびりつき、とれにくくなります。また、かけ面に布の色がつき、布に色移りする場合があります。

市販のあて布用アタッチメントは使用しないでください。

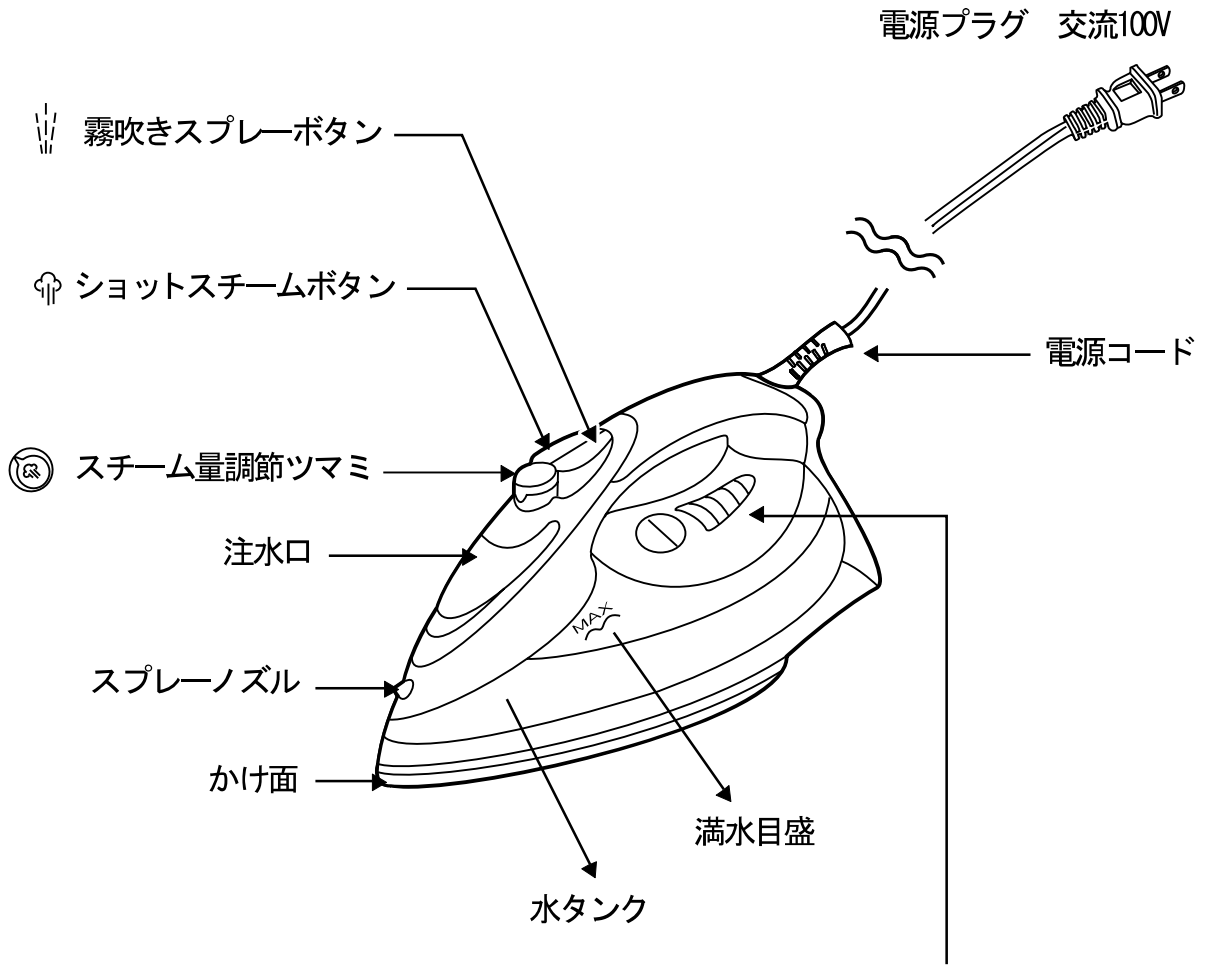
故障の原因になります。

通電していないときや通電後も、適温になるまではスチーム調整つまみを「○」に合わせ、切にして、立たた状態にしてください。

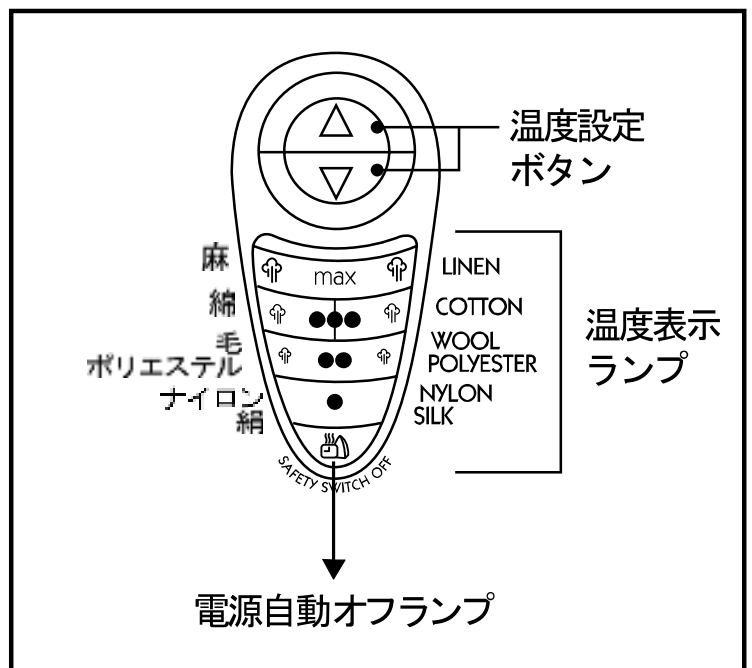
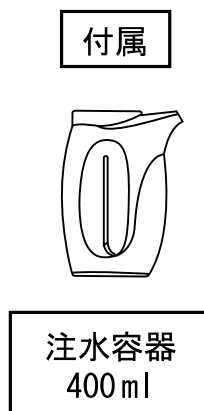
思わぬときにスチームが出て、やけどの原因となります。

アイロン使用後は必ずタンク内の水を捨てて下さい。






各部の名称



操作部






繊維製品に表示されている絵表示とアイロンの温度について

繊維製品の表示					
繊維の種類	アイロンがけはできない	アクリル ポリウレタン ポリプロピレン ナイロン 絹	毛 ポリエステル	綿	麻綿 (ジーンズ)
温度表示	—	●	●●	●●●	max
かけ面温度	—	100℃	140℃	190℃	210℃

- アイロンの温度は、繊維製品に付いている表示に従ってください。
- 混紡の場合には、温度の低い方の繊維に合わせて設定してください。
- 化繊、毛、絹などの熱に弱い繊維製品にアイロンをかけるときには、「あて布」「ためしがけ」をしてください。
- 糊付けしたものにアイロンをかけるときには、「あて布」を用いてください。万一、かけ面に糊が付着した場合には、水を含ませた柔らかな布でふき取ってください。
- アイロンがけの途中でアイロンの動きを極端に遅くすると、布地を傷めることがあります。
- ボタン・ファスナー・金属の飾り等のように硬いものにアイロンをかけないでください。かけ面を傷つけます。

絵表示の見方

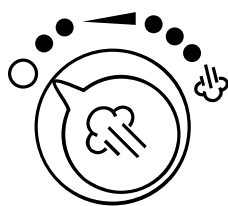
	~~~~ は、指定された温度であて布をする意味です。
	指定された温度で裏からかける意味です。
	アイロンがけはできません。
その他「スチーム禁止」などの表示があれば、その表示に従ってください。	

ご使用方法

1 タンクに水道水を入れる

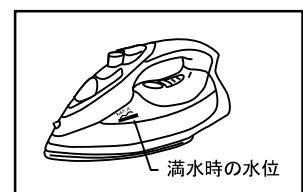
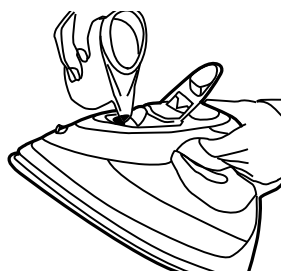
スチームを使用する場合には、水タンクに水道水を入れてください。
 ※リネンウォーター、香水を含んだ水などは入れないでください。
 ※注水容器の容量（400ml）以上の水を入れしないでください。

- ①スチーム量調節つまみを「○」に合わせ、切にします。



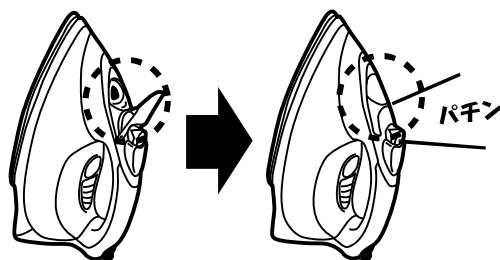
スチーム切

- ②注水口のフタを開け、注水容器を使って水を注ぎます。



③注水口のフタを閉める。

※フタはパチンと音がするまで、しっかり閉めてください。



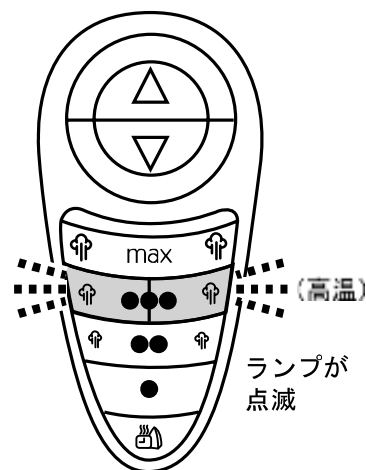
ご使用方法

2 電源プラグをコンセントに差し込む

プラグを差すと、ピーと音が鳴り、温度表示ランプの「綿（高温）」が点滅します。

！ ご注意ください！

このアイロンは、電源プラグをコンセントに差すと、通電を開始し、かけ面温度が自動的に「綿（高温）」の設定になります。電源プラグを差したまま、絶対にアイロンのそばを離れないでください。



3 温度を設定する

温度設定ボタン（▲または▼）を押して、温度表示ランプが希望の位置で点滅するようにしてください。

※電源プラグをコンセントに差すと自動的に「綿（高温）」になりますので、「高」より低い温度でアイロンがけされる場合は、プラグを差してすぐに上記動作を行ってください。一度温度が上がると冷めるまでかなりの時間がかかります。

アイロンがけは、低温のものから順次、高温の繊維製品にかけると布地をいためず、効率的です。

衣類に絵表示がある場合は、絵表示に従ってください（5ページ参照）。混紡の場合には、温度の低い方の繊維に合わせて設定してください。

ご使用方法

5 ドライアイロンを使う場合

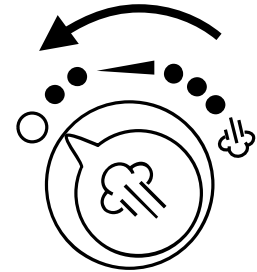
スチーム量調節つまみを「○」に合わせ、切にします。

スプレー（霧吹き）

綿・麻など植物系繊維の強いシワには、スプレー（霧吹き）を使い、ドライアイロンがけするのが効果的です。

スプレーは設定温度に関わらず、使えます。

※絹には使用しないでください。布地を傷めることがあります。



スチーム切

6 スチームアイロンを使う場合

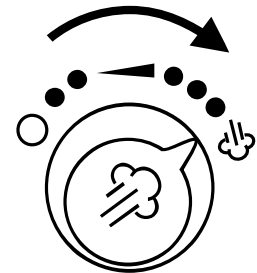
スチーム量調節つまみを「○」から右へ回し、アイロンを水平状態にするとスチームが出ます。初めてお使いになるときは、スチームが出るまで多少時間がかかることがあります。

スチーム

羊毛など動物性繊維製品のシワを取ったり、風合いを取り戻すのに効果的です。

※温度設定が低温の時にはスチームは使えません。温度が低いので湯滴が出てきます。

※タンクの水量が少ないとスチームが出にくくなります。



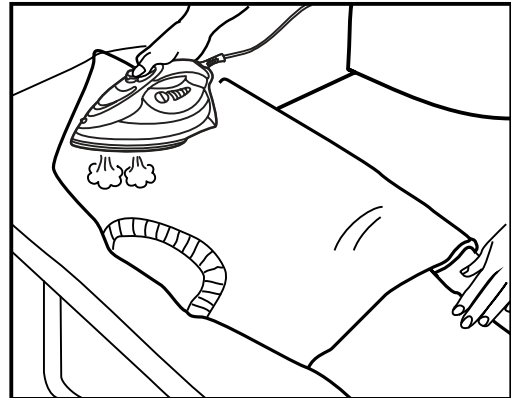
スチーム強

ご使用方法

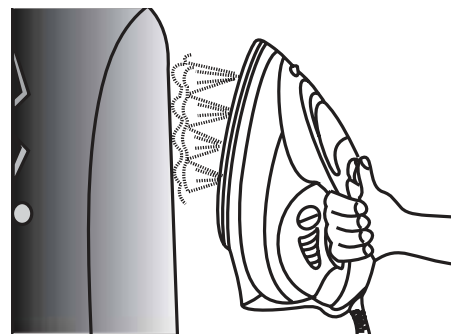
ショットスチーム

- ①設定温度を「MAX」にして、スチーム量調節つまみ「○」に合わせて、切にします。
- ②ショットスチームボタンを押します。
※ショットスチームボタンは2秒以上間隔をあけて押してください。
瞬時に何度も押すと、湯滴が出てやけどや衣類の布地を傷める原因となります。
※スチームが出ないときはショットスチームボタンを4、5回押して空気抜きをしてください。
※繊維製品の目立たない部分で、ためしがけをしてからお使いください。

- 平らに置いた衣類にアイロンを水平にしてショットスチームを吹きつけ、シワを取ります。



- アイロンを縦に持って、ハンガーに掛けた衣類にショットスチームを吹きつけ、シワを取ります。



※衣類を身につけたままショットスチームを使用しないでください。
やけどの原因になります。

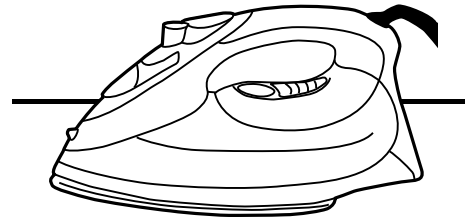
電源自動オフ機能

アイロンを放置したとき、自動的に通電が停止します。

【水平状態で放置したとき】

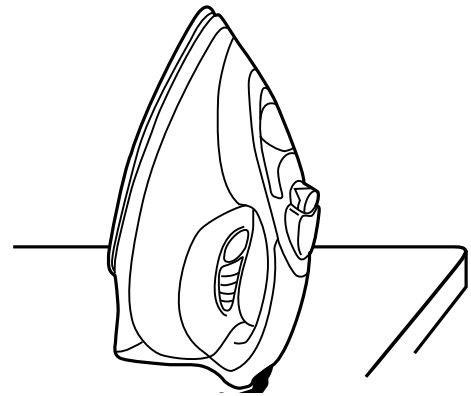
使用状態のまま約30秒アイロンの動きを止めると、ピーと音が鳴り、電源自動オフランプが点滅し、通電が停止します。アイロンがけのスピードが極端に遅い場合にも、この機能が作動する場合があります。

布の傷みやスチームアイロンでの水漏れ、湯滴を防ぐため、使用を一時中断するときには、立てておいてください。



【立てた状態で放置したとき】

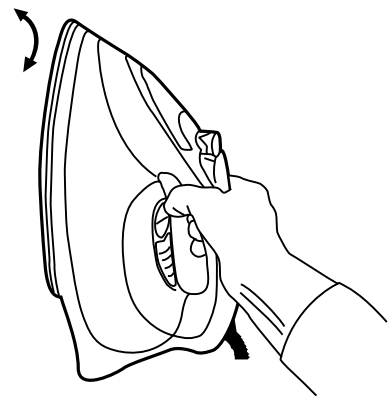
アイロンを立てた状態で約8分アイロンがけの動きを止めると、ピーと音が鳴り、電源自動オフランプが点滅し、通電が停止します。



【再度、通電したいとき】

アイロン本体を軽く動かすか、温度設定ボタンの▲または▼を押すと、再び通電を開始します。

※アイロンの先端を上下に振った時も再び通電が開始される場合がございますので注意してください。

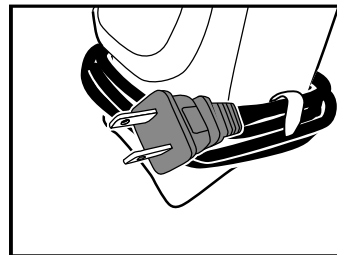
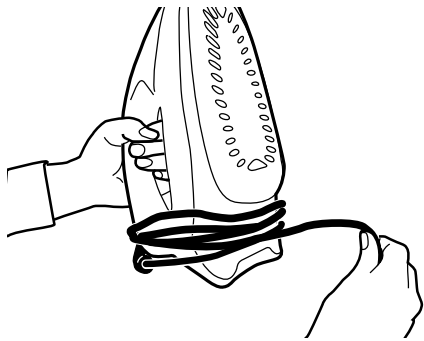


水垢防止機能

水垢成分をイオン交換樹脂に吸着させ、スチームの目詰まりを防ぎます。

使用の終了

1. スチーム量調節つまみを「○」に合わせ、切にします。
2. 温度設定ボタン▼または▲を長押し（約3秒）すると、通電が停止します。
3. 電源プラグをコンセントから抜き、かけ面が冷えるまで待ちます。
4. アイロンの注水口を開け、タンクに残った水を捨てます。
5. 収納の際には、かけ面が十分に冷めてから、電源コードを束ねるか、巻き付けるか、安全な方法で保管してください。



お手入れの際のご注意

- 電源プラグを抜き、本体が冷めてから行ってください。
- ベンジン・シンナーなどの溶剤、クレンザー、たわしなどは使用しないでください。
- 操作部の隙間から水分が内部に入らないよう、注意してください。

アイロンの汚れ

- 柔らかな布で拭いてください。

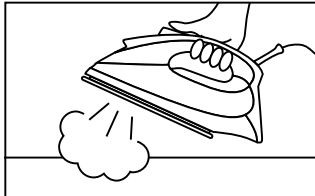
かけ面の汚れ

- かけ面で汚れが取れない場合や洗濯のり等が付着している場合は、水を含ませた布で拭いてください。
- 汚れがひどいときには、台所用の中性洗剤を薄めて含ませ、固く絞った布で拭いた後、乾拭きしてください。
- スチーム孔に水垢が付着してしまった場合、つまようじ等を用いて除去してください。その際は、つまようじが折れて内部に入らないようご注意ください。また、金属類は使用しないでください。

アイロンのかけ方

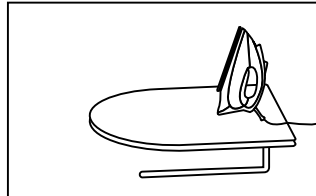
【アイロンのポイント】

① スチームを使う



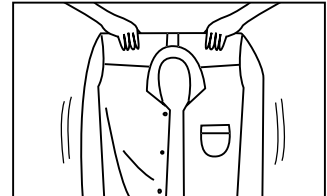
ウール繊維厚手の綿などの風合もどしや、頑固なシワのばしに。

② アイロン台を使う



大きく、やや柔らかいものを。

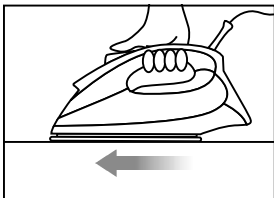
③ クールダウン



布地の余熱はシワの原因。次の動作に移る前にやさしくゆすり、余熱を冷ましシワがのびた状態を固定しましょう。

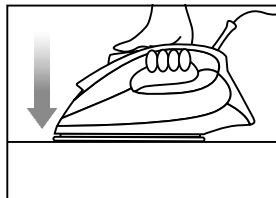
【動作のポイント】

① すべらせる



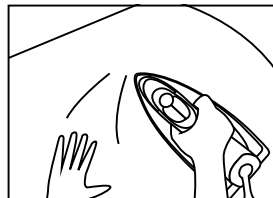
力を入れず、手に引っ掛けるようにして軽〜くすべさせます。

② プレスする



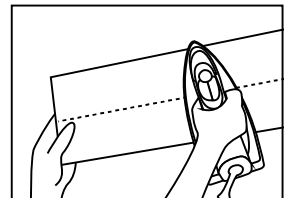
折り目をきっちり付けたときや、頑固なシワをとるときは、しっかり押さえます。

③ 両手を使う



あいた方の手で、布地を引っばったり、アイロンを持ち替えたり上手に使いましょう。

④ 縫い目は引っぱって

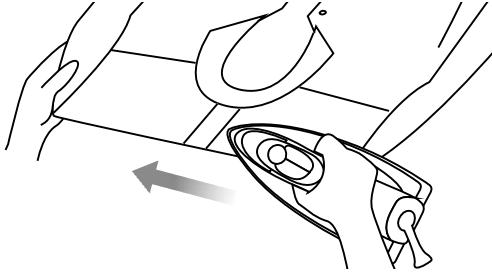


細かいシワが残らないように、引っばりぎみにかけます。

アイロンのかけ方

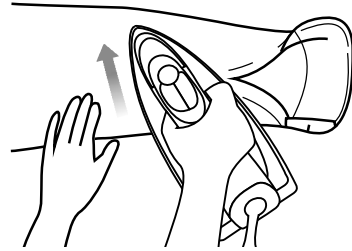
ワイシャツをかけるポイント

ヨーク



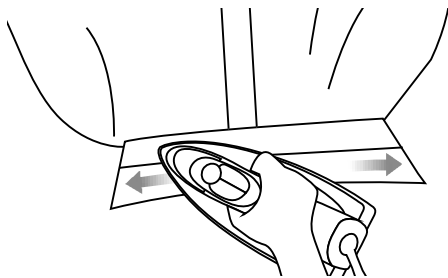
左端を引っ張りながらヨークをかけます。

そで



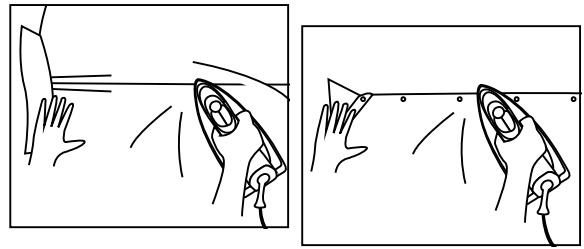
わきの縫い目を基準に袖山に向かってかけます。

エリ



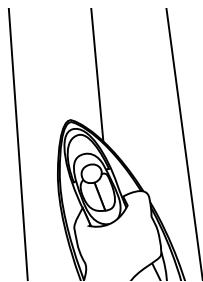
両衿先方向と中央で軽く押さえるようにかけます。

後ろ身頃/前身頃

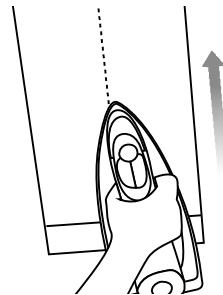


後ろ身頃をかけてから、前身頃をかけます。

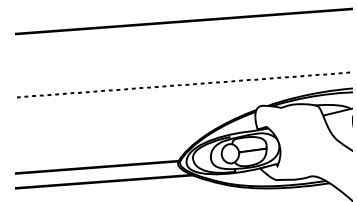
スラックスをかけるポイント



スラックスの裏側から、縫い目に沿ってかけます。



表にして、縫い目に沿って裾から股下をかけます。



折り目をきめます。

故障かな、と思ったら

症状	点検・原因	処置
かけ面が熱くならない	電通プラグがコンセントにきちんと差し込まれていない。	電源プラグをコンセントにきちんと差し込む。
	温度表示ランプが光らない	温度表示ランプが点滅・点灯しなければ故障。弊社フリーダイヤルへお問い合わせください。
	温度表示ランプが点滅から点灯へ変わらない。	アイロンを軽く動かすか、温度設定ボタンの▲または▼を押すと、通電を開始する。
	電源自動オフ機能が作動している。	
布地がこげる	布地に対して設定温度が高すぎる。	設定温度を適温に合わせる。
布地が変色する	布地に洗濯洗剤や洗濯のりが残っている。	洗濯洗剤はしっかりすすぎを行い、のりを使用した際はあて布を使用する。
	かけ面の汚れが付着した。	かけ面の汚れを布で拭く。
スチーム使用時に白い粉が出る	水に含まれる成分が水垢として内部に付着している。	ショットスチームを数回押して、内部に付着した水垢を吹き飛ばす。
スチームが出ない スチーム量が少ない	使い始めはスチームが出るのに時間がかかることがある。	アイロンを水平状態にしてしばらく待つ。
	使い始めはショットスチームが出ないことがある。	ショットスチームを数回押して、内部の空気を抜く。
	スチーム量調節ツマミの位置が「○（切）」付近になっている。	スチーム量調節ツマミを右へ回し、放出量を多くする。
	設定温度が低温になっている。	低温では、スチームは使用できない。
	水タンクに水が入っていない。	水タンクに水を入れる。
	水タンク内の水量が少ない。	水を満水目盛りまで入れる。
スチーム使用時、湯滴が出る	設定温度に達していない。	設定温度に達するまで待つ。
	設定温度が低温になっている。	低温では、スチームは使用できない。
	ショットスチームを瞬時に連打した。	ショットスチームは2秒以上間隔をあけて使用する。
水がこぼれる	水タンクに水を入れすぎた。	満水目盛り以上に水を入れない。
	注水口がきちんと閉まっていない。	注水口のフタがパチンと音がするまでしっかり閉める。
	アイロン使用后、水タンクから残水を捨てなかった。	使用後は、水タンクを空にする。
通電開始と終了後に「カチッ」と音がする	スチーム用のサーモスタットの音です。故障ではありません。	